

2025年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年10月11日

上場会社名 住江織物株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3501 URL https://suminoe.co.jp/  
 代表者（役職名）取締役社長（氏名）永田 鉄平  
 問合せ先責任者（役職名）執行役員経営企画室部長（氏名）水野 明秀（TEL）06-6251-6803  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2025年5月期第1四半期の連結業績（2024年6月1日～2024年8月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年5月期第1四半期	24,567	2.7	82	△81.8	△139	—	△462	—
2024年5月期第1四半期	23,921	15.2	454	—	637	—	370	—

（注）包括利益 2025年5月期第1四半期 △15百万円（—％） 2024年5月期第1四半期 1,542百万円（213.7％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年5月期第1四半期	△68.42	—
2024年5月期第1四半期	58.41	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年5月期第1四半期	93,720	37,328	33.7
2024年5月期	92,199	37,687	34.7

（参考）自己資本 2025年5月期第1四半期 31,605百万円 2024年5月期 32,038百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年5月期	—	35.00	—	35.00	70.00
2025年5月期	—	—	—	—	—
2025年5月期（予想）	—	40.00	—	40.00	80.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年5月期の連結業績予想（2024年6月1日～2025年5月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	51,200	△0.4	1,000	△28.9	1,100	△35.0	300	△60.2	44.41
通期	105,300	1.8	3,300	△0.0	3,400	△7.3	1,500	71.5	222.05

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年5月期1Q	7,682,162株	2024年5月期	7,682,162株
② 期末自己株式数	2025年5月期1Q	927,032株	2024年5月期	926,816株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年5月期1Q	6,755,255株	2024年5月期1Q	6,346,014株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績は、今後の様々な要因によって予測値と異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	P. 2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	P. 2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	P. 6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 7
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 9
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	P. 9
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	P. 10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 11
(継続企業の前提に関する注記)	P. 11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 11
(連結の範囲又は持分法適用範囲の変更)	P. 11
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	P. 11
(セグメント情報等の注記)	P. 12

## 1. 経営成績等の概況

### （1）当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、堅調な企業収益を背景とする設備投資の持ち直しや、賃上げに伴う雇用・所得環境に改善の動きが見られるなど、景気は緩やかに回復しました。一方で、不安定な国際情勢のなか長期化する原材料・エネルギー価格の高騰や欧米における高い金利水準の継続に伴う影響など、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

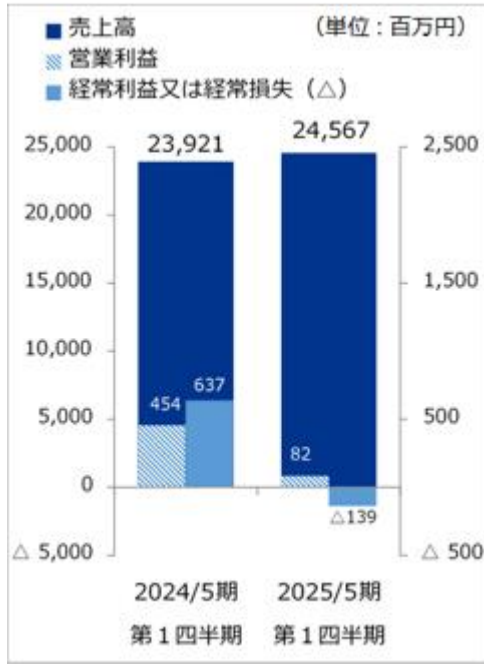
当社グループ事業に関連のあるインテリア業界において、国内の新設住宅着工戸数は前年同期比4.0%減、非住宅分野では着工床面積が同8.1%減となりました。また、自動車業界において、国内の日系自動車メーカーの生産台数は前年同期比6.9%減となり、海外においても減少しました。

当社グループは、中長期経営目標「SUMINOE GROUP WAY 2022～2024～2027」の後半3ヵ年「STEP II（2025～2027）」の方針の下、実力の底上げを確実に進める期間と位置づけ、各種施策を推進しております。

当第1四半期連結累計期間は、自動車・車両内装事業の自動車関連では、前期より引き続きメキシコ子会社に新設した合成皮革工場での量産に向けた対応を進めました。併せて、これまで機能資材事業で扱う繊維系暖房商材の主生産工場であったベトナム拠点で、当期中の量産稼働を目標とした自動車向けカーペット及びカーマットの生産体制構築を進めるなど、ベトナム拠点の採算性向上と自動車内装材の世界最適供給体制の強化に取り組んでおります。また、将来の受注に向けてSUMINOE GROUPの強みをPRするため、「Liberate “時間・空間の制約” からの解放」をテーマに、国内外の日系自動車メーカーに対しサステナブルな新素材及び新技術の紹介や、トータルコーディネートを提案するプレゼンテーションを開催いたしました。今後も技術力や提案力の向上に取り組んでまいります。車両関連では、鉄道各社において、内装材のほか安全対策品である非常脱出はしごが採用されるなど、トップシェアの強みを活かして幅広い提案に努めました。インテリア事業においては、インバウンド需要の回復に伴うホテル等の改修物件の増加に対応し、多数のホテルにロールカーペットが採用されました。祖業である手織緞通の伝統技術と新しい発想や技術開発を掛け合わせて提案することで、市場シェアの拡大を目指しております。

当期初には、商号の変更及び定款の一部変更について開示し、2024年8月に開催いたしました当社第135回定時株主総会で決議されました。商号変更に先立ち、SUMINOE GROUPのこれまでの歩み、そしてこれからの目指す姿を紹介する動画を公開いたしました。2024年12月2日の「SUMINOE株式会社」への商号変更を契機とし、本格的な海外展開に向けた活動を推進するとともに、非繊維関連を含む各事業の収益力及び競争力向上を目指し、世界に向けた新たな価値創造に挑戦してまいります。

当第1四半期における連結業績は、以下のとおりとなりました。

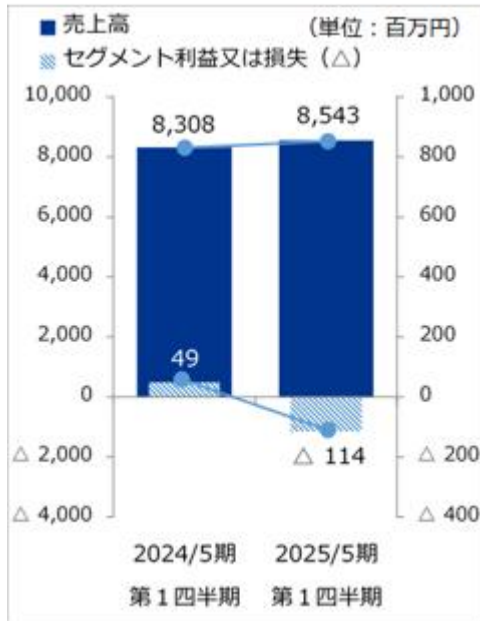


売上高は、自動車・車両内装事業において、コロナ禍で落ち込んでいた鉄道・バス向け内装材需要の回復に着実に対応し売上が伸長したことや為替も寄与したことなどから、前年同期比2.7%増の245億67百万円となりました。利益面では、原材料価格の高騰などの影響により、営業利益は同81.8%減の82百万円となりました。また、為替相場の大幅な変動に伴う為替差損を計上したことなどから、経常損失は1億39百万円（前年同期経常利益6億37百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は4億62百万円（同 親会社株主に帰属する四半期純利益3億70百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

セグメント	売上高		セグメント利益又は損失 (△)	
	金額 (百万円)	前年同期比 (%)	金額 (百万円)	前年同期比 (%)
インテリア事業	8,543	+2.8	△114	—
自動車・車両内装事業	15,369	+3.4	765	△11.0
機能資材事業	567	△12.5	△35	—
その他	86	△14.4	11	△48.4
小計	24,567	+2.7	626	△35.9
調整額	—	—	△543	—
合計	24,567	+2.7	82	△81.8

(インテリア事業)



中高級ゾーンを中心としたロールカーペットの受注が好調に推移し、「空間」全体をデザインするスペース デザイン ビジネスの売上也寄与したことなどから、売上高は前年同期比2.8%増の85億43百万円となりました。利益面では、壁装関連で価格改定効果が一巡したことなどから、セグメント損失1億14百万円（前年同期 セグメント利益49百万円）となりました。

業務用カーペットでは、株式会社スミノエが販売する水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®（エコス）」の環境への取り組みが国内において浸透し、海外での販売も堅調となりました。加えて、積み重ねた技術力と信用力によりホテルやハイブランドショップ向けのロールカーペットの受注が好調となったことなどから、売上高は前年同期比7.1%増となりました。

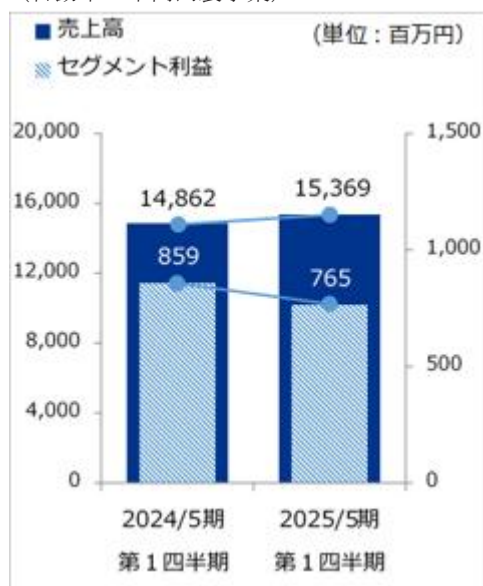
家庭用カーペットでは、ハイグレードなラグマットや新たな販路としてペット関連商品の開発・販売に注力したものの、市場停滞が継続しており、売上高は同14.7%減となりました。

カーテンでは、一般家庭向け「mode S（モードエス）カーテン Vol. 10」の売上が伸長したものの、病院をはじめとする納入物件の減少により医療・福祉・教育施設向け「コントラクトFace（フェイス®） Vol. 20.1」の販売が振るわず、売上高は同0.7%減となりました。

壁装関連では、ルノン株式会社が2023年8月に発売した、多様化する住宅のインテリアに調和するデザインとカラーが充実している壁紙見本帳「ルノンホーム」の堅調な販売があった一方で、襖紙等の販売が伸び悩み、売上高は同3.4%減となりました。

スペース デザイン ビジネスでは、ショップ内装やタワーマンションへのオプション販売などの受注物件数が増加し、売上高は同8.1%増となりました。

## （自動車・車両内装事業）

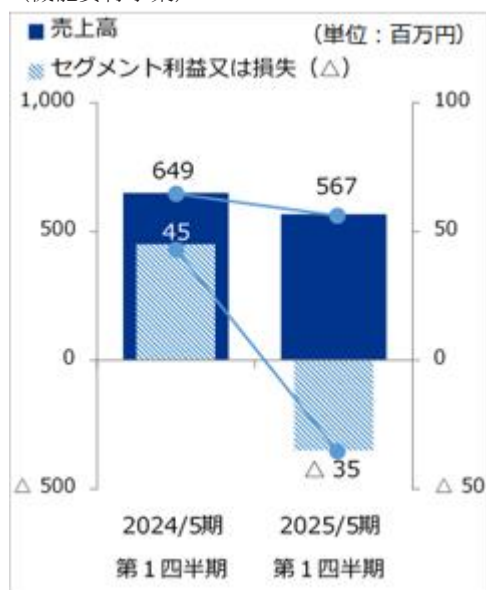


北中米拠点でのカーペットやカーマットの堅調な販売に加え、各海外拠点において為替効果があったことから自動車関連売上が増加するとともに、車両関連も着実に受注を取り込んだことから、自動車・車両内装事業全体の売上高は前年同期比3.4%増の153億69百万円となりました。セグメント利益は、原材料価格及び物流費の高騰などの影響を受け、同11.0%減の7億65百万円となりました。

自動車関連では、受注車種の販売台数の落ち込みなどにより、国内の売上高は前年同期比2.2%減となりました。海外では、各拠点において為替効果があったことに加え、北中米拠点においては、事業再編の完了後、カーペットやカーマットの販売が堅調となったことにより売上は伸長しました。中国拠点においては、EV需要の拡大に対する日系自動車メーカーの苦戦が影響したものの、日本での完成車組み立て生産分の売上が伸長しました。また、東南アジア拠点においては、各国の情勢による自動車販売台数の低調な推移が見られた一方、カーマットの販売及び独自商材の細幅織物「GRACE CORD®（グレースコード）」など注力している加飾事業の売上が堅調に推移し、海外の売上高は同5.5%増となりました。

車両関連では、子会社化した関織物株式会社との連携により、人流の活発化を背景とした公共交通機関の利用客数増加に伴う鉄道リニューアル工事の受注に的確に対応したことから、鉄道向けの売上高は前年同期を上回りました。バス向け内装材においても、路線バスに続き回復傾向となった観光バスの需要も着実に取り込んだことから堅調に推移し、車両関連全体での売上高は前年同期を上回りました。

## （機能資材事業）



主力製品であるホットカーペットなどの繊維系暖房商材は、近年の暖冬に起因する得意先の在庫調整により新規受注数が減少し、売上は前年同期を下回りました。消臭・フィルター関連は、空気清浄機向けフィルターの納入時期の前倒しがあったものの、冷蔵庫用フィルターの出荷減少により、売上は前年同期並みに推移しました。浴室床材は、新設住宅着工戸数の減少による住設市場の縮小と、主要得意先の生産体制変更による一部モデルの転注により、売上は前年同期を下回りました。以上のことから、機能資材事業全体の売上高は前年同期比12.5%減の5億67百万円、セグメント損失は35百万円（前年同期 セグメント利益45百万円）となりました。

（2）当四半期連結累計期間の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、有形固定資産の増加等により、前連結会計年度末に比べ15億21百万円増加し、937億20百万円となりました。

負債につきましては、借入金の増加等により、前連結会計年度末に比べ18億80百万円増加し、563億91百万円となりました。

純資産につきましては、その他有価証券評価差額金の減少等により、前連結会計年度末に比べ3億59百万円減少し、373億28百万円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想に関しましては、2024年7月12日に発表しました連結業績予想から変更はありません。



## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,303	8,514
受取手形、売掛金及び契約資産	15,665	15,464
電子記録債権	7,764	8,558
商品及び製品	9,657	9,995
仕掛品	2,362	2,455
原材料及び貯蔵品	4,312	4,147
その他	2,954	2,733
貸倒引当金	△69	△68
流動資産合計	50,949	51,802
固定資産		
有形固定資産		
土地	15,652	15,719
その他（純額）	15,262	16,004
有形固定資産合計	30,914	31,724
無形固定資産		
1,510	1,510	1,565
投資その他の資産		
投資有価証券	6,396	6,072
繰延税金資産	1,304	1,392
その他	1,266	1,304
貸倒引当金	△142	△142
投資その他の資産合計	8,824	8,627
固定資産合計	41,249	41,917
資産合計	92,199	93,720

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,519	10,526
電子記録債務	8,200	10,188
短期借入金	8,249	10,514
未払法人税等	812	270
関係会社株式売却損失引当金	903	893
その他	5,794	5,646
流動負債合計	35,479	38,040
固定負債		
社債	1,000	1,000
長期借入金	8,840	8,157
繰延税金負債	313	319
役員退職慰労引当金	90	62
退職給付に係る負債	3,956	3,955
その他	4,830	4,856
固定負債合計	19,031	18,351
負債合計	54,511	56,391
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	9,554	9,554
資本剰余金	2,388	2,388
利益剰余金	12,198	11,495
自己株式	△2,709	△2,709
株主資本合計	21,431	20,727
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,750	1,512
繰延ヘッジ損益	△1	1
土地再評価差額金	6,283	6,283
為替換算調整勘定	2,605	3,106
退職給付に係る調整累計額	△30	△26
その他の包括利益累計額合計	10,607	10,877
非支配株主持分	5,649	5,723
純資産合計	37,687	37,328
負債純資産合計	92,199	93,720

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年6月1日 至 2023年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年6月1日 至 2024年8月31日)
売上高	23,921	24,567
売上原価	18,801	19,596
売上総利益	5,119	4,971
販売費及び一般管理費	4,665	4,888
営業利益	454	82
営業外収益		
受取利息	6	9
受取配当金	25	29
為替差益	179	—
不動産賃貸料	69	102
保険配当金	24	—
その他	37	101
営業外収益合計	343	242
営業外費用		
支払利息	83	84
持分法による投資損失	58	0
為替差損	—	326
不動産賃貸費用	3	15
その他	16	38
営業外費用合計	161	464
経常利益又は経常損失(△)	637	△139
特別利益		
固定資産売却益	2	15
投資有価証券売却益	101	—
特別利益合計	104	15
特別損失		
固定資産除売却損	1	6
特別損失合計	1	6
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	740	△130
法人税、住民税及び事業税	258	165
法人税等調整額	△13	26
法人税等合計	244	192
四半期純利益又は四半期純損失(△)	495	△322
非支配株主に帰属する四半期純利益	124	139
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	370	△462

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年6月1日 至 2023年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年6月1日 至 2024年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	495	△322
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	300	△237
繰延ヘッジ損益	7	2
為替換算調整勘定	736	537
退職給付に係る調整額	7	3
持分法適用会社に対する持分相当額	△6	—
その他の包括利益合計	1,046	306
四半期包括利益	1,542	△15
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,350	△191
非支配株主に係る四半期包括利益	191	175

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用範囲の変更)

2024年6月7日付で締結した株式譲渡契約に基づいて株式会社わかたけの発行済株式の全てを取得したことに伴い、当第1四半期連結会計期間より同社を連結の範囲に含めております。なお、2024年6月30日をみなし取得日としており、かつ四半期連結決算日との差異が3ヶ月を超えないことから、当第1四半期連結会計期間においては同社の2024年6月30日時点の貸借対照表のみを連結しており、四半期連結損益計算書に同社の業績は含まれておりません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年6月1日 至 2023年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年6月1日 至 2024年8月31日)
減価償却費	550百万円	581百万円

(セグメント情報等の注記)

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年6月1日 至 2023年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	インテリア 事業	自動車・ 車両内装 事業	機能資材 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	8,308	14,862	649	23,820	100	23,921	—	23,921
セグメント間の内部 売上高又は振替高	179	0	3	183	31	214	△214	—
計	8,487	14,863	652	24,003	131	24,135	△214	23,921
セグメント利益	49	859	45	954	22	976	△522	454

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物性・性能検査業等であります。
- 2 セグメント利益の調整額△522百万円には、セグメント間取引消去9百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△532百万円が含まれております。  
全社費用は、報告セグメントに帰属しない管理部門及び研究開発部門に係る費用等であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2024年6月1日 至 2024年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	インテリア 事業	自動車・ 車両内装 事業	機能資材 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	8,543	15,369	567	24,481	86	24,567	—	24,567
セグメント間の内部 売上高又は振替高	201	3	25	229	33	263	△263	—
計	8,745	15,372	593	24,710	119	24,830	△263	24,567
セグメント利益 又は損失(△)	△114	765	△35	614	11	626	△543	82

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物性・性能検査業等であります。
- 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△543百万円には、セグメント間取引消去8百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△552百万円が含まれております。  
全社費用は、報告セグメントに帰属しない管理部門及び研究開発部門に係る費用等であります。
- 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。